

【注目分野の内容】

[2. 言葉の働きについて、言語論的内容]

<キーワード・注目点>

※1 ヴェールとしての言葉

※2「こと」と「もの」

※3 言葉の働き(概念化の記号化)

<読んでおきたい文章とそのポイント ※1 ヴェールとしての言葉>

○**ヴェールとしての言葉**: 見えないものに名前を付けると、それを具体的に存在する対象として考えることができる。(例: ガス、神、霊魂)

○一方、例えば「日本人」「男性」といった言葉で一括りされると、違いがあるのに、ひとつの言葉でレッテルを貼られて対応される。

2017聖光学院(男)加藤博子「五感の哲学」

<読んでおきたい文章とそのポイント ※2「こと」と「もの」>

○「夕焼け」…生起している出来事＝「こと」

言葉で表現…経験が排除…言語表現が成立＝「もの」

○言葉は「こと」を喚起する力をもっている。

○詩歌は「こと」を喚起する言葉の力を利用して成り立つ

例:閑(しず)さや岩にしみ入る蝉(せみ)の声(松尾芭蕉)

2016聖光学院(男)藤田正勝「哲学のヒント」

